

## 6. 次年度以降の取組内容

---

### 6.1 これまでの検討結果のまとめ

---

本町では、令和元年度より、エネルギー構造高度化・転換理解促進事業を活用して、エネルギービジョンの策定や実現可能性調査、実証実験を実施してきた。

各年度の実施内容は以下の①～③に示すとおりである。

#### ① 実施事業の基礎となる地域のエネルギービジョン策定（令和元年度）

本町の概況（人口・気候・産業等）を整理し、地域の特性や状況について把握しつつ、本町で有望な再エネとして「太陽エネルギー」「風力」「温泉熱」を位置付け、これらの再エネを活用した地場産業の振興を目指すことと結論づけた。

#### ② 再エネごとの実現可能性を踏まえた将来像の検討（令和2年度）

実現可能性調査を実施し、再エネ電源ごとの実現可能性を踏まえた導入スケジュールを設定し、再エネ利用の将来像及びロードマップを策定した。

導入スケジュールでは、短期的取組み（Step1）と中長期的取組み（Step2、Step3）とを区分し、Step1では本町の喫緊の課題とされるモビリティ機能の拡充に向けて、EV拠点を目指した再エネ活用型EV充電設備を導入することとした。

#### ③ 将来像(Step.1)を具体化するための実証実験（令和3年度）

再エネ利用の将来像に示すStep1の実現に向けて、デマンドタクシーに対する住民のニーズを把握し、最適な再エネ活用型EV充電設備や新しい交通システムを検討するための実証実験及び本町で有望な再エネとして位置付けられた太陽光、風力、温泉熱等を活用したプロジェクトの具体化に向けた実現可能性調査を行った。

実証実験では多くの利用者があり、本格運用に向けて有用なデータを取得するとともに、利用者のほとんどが本格運用を望んでいることが確認できた。一方課題として、実証実験に参加していない住民への対応、観光利用者への対応、実証実験では設定していなかった運賃の徴収、運行事業者や予約システムの変更などへの対応が残された。

#### ④ 将来像(Step.2)を具体化するための実現可能性調査（令和4年度）

実証実験結果を踏まえた再エネ活用型EV充電設備を導入（本調査とは別事業で実施）するとともに、新交通システム（EV活用予約型乗合交通「いねタク」）の本格運用を開始した。これによりStep1に目途が立ったことを受け、新たにStep2の実現に向けた検討を開始した。

EV活用デマンド交通の効果検証と利活用検討においては、利用実績や充電実績を調査・分析して効果検証を行うとともに、町内全世帯といねタク利用者にアンケート調査を実施した。

また、公共施設の再エネ電源化に向け、本庄診療所と新たに整備予定の筒川地区コミュニティセンターへの太陽光発電等の導入を検討するとともに、農業や漁業分野で現在使用している既存エネルギーの再エネ電源化に向けた事前検討を行った。

令和2年度～令和4年度に行った各プロジェクトの検討結果を表6-1に示す。

表 6-1 これまでの検討結果のまとめ

プロジェクト	検討テーマ	令和2年度	令和3年度	令和4年度
公共施設における太陽光発電導入及び居住利便性向上・観光振興・防災性向上プロジェクト	町有施設及び農地・建設残土処分場への太陽光発電設備の導入	公共施設における太陽光発電設備を導入する施設として、保健センター、本庄小学校、社会福祉協議会（泊泉苑）の3施設が選定された。	実証実験で得られたデータからEVの燃費及び稼働率を算出し、地域のエネルギー需要に応じた適切なEV充電設備の仕様を決定。	新たな公共施設として本庄診療所（既設）、筒川地区コミュニティセンター（新設）の2施設を選定して再エネ電源化を検討した。
		EV充電拠点として庁舎北側飛地にカーポートと一体型の太陽光発電設備を導入し、複数のEVを駐車及び充電できる拠点を整備する。		エネ高事業（ハード）において、再エネ活用型EV充電設備を導入した（太陽光発電57.75kW、蓄電池97.2kWh）。
	太陽光発電の導入に向けたEV活用デマンドモビリティシステム	伊根町コミュニティバスに代わる地域に合った新しい交通システムとしてEVデマンドタクシーの導入が有効。	EV活用したデマンドタクシー実証実験（9～10月）を実施。令和4年4月1日から本格運行を開始。	EV活用デマンド交通（いねタク）の効果検証を行った。利用者数は順調に伸びており、いねタクの稼働率は高い。

次年度以降の検討事項

- ・筒川地区コミュニティセンターへの再エネ設備導入（令和6年度以降）
- ・充電設備の再エネ利用率を最大限に高めるため、充電設備の稼働状況・導入効果等を検証
- ・新たな再エネ電源開発に向けた調査とエネルギーの地産地消に向けた検討を実施
- ・再エネを使った地域公共交通を町内外にPRする広報素材を作成し広報活動を実施

プロジェクト	検討テーマ	令和2年度	令和3年度	令和4年度
温泉熱活用等による特産品の創出と観光振興に向けた地域循環実証プロジェクト	伊根町に適した生産品目の設定、生産段階で必要な環境条件やエネルギーシステム、段階的な事業化に向けた検討	<p><b>水産養殖:</b></p> <p>生産品目の生産段階において再エネ利用を進めることは現状難しい。泉源の湧出温度が約28℃と低いため、飼育水の加温は可能だが、冷却はできない。温泉水にヒ素が含まれるため飼育水には使えない。</p>	<p><b>施設園芸:</b></p> <p>生産品目としてキノコとイチゴの可能性が示唆されたが、温泉熱の温度が低いため熱源としての利用が難しい。太陽光発電の利用も現時点では課題が多く、また再エネ利用の前に菌床栽培の経験がある事業者を呼び込み、その指導のもと進める必要がある。</p>	<p><b>漁港施設等:</b></p> <p>温泉熱の活用が困難であることから、既存の漁港や耕作地などの農業・漁業分野における再エネ活用を検討したが、再エネ利用可能量が少なく、産業振興につながる見込みは低い。</p>

今後の対応

- ・これまでの検討結果から、技術的にも事業環境的にもすぐの事業化は難しいと判断されることから、本事業での調査はいったん終了する。
- ・本町の主要産業である漁業・農業分野の産業振興は本町の重要課題であることから、必要に応じて、町内外の関係団体との協議の場を設けていくものとする。

## 6.2 次年度以降の取組内容

### 6.2.1 令和4年度の検討結果を踏まえた今後の方向性

令和4年度の検討結果を踏まえた今後の方向性を表6-2に示す。

表6-2 令和4年度の検討結果を踏まえた今後の方向性

令和4年度プロジェクト	令和4年度の結果を踏まえた今後の予定
【PJ1】 公共施設の再エネ電源化検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 筒川地区コミュニティセンターへの再エネ設備導入（令和6年度以降の予定）。</li> <li>● 充電設備の再エネ利用率を最大限に高めるため、充電設備の稼働状況・導入効果等を検証する。</li> <li>● 新たな再エネ電源開発に向けた調査とエネルギーの地産地消に向けた検討を実施する。</li> <li>● 再エネを使った地域公共交通を町内外にPRする広報素材を作成し広報活動を実施する。</li> </ul>
【PJ2】 EV活用デマンドタクシーの効果検証及び利活用検討	
【PJ3】 伊根町内における再エネ利用拡大に向けた事前検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>● これまでの検討結果から、技術的にも事業環境的にもすぐの事業化は難しいと判断されることから、本事業での調査はいったん終了する。</li> <li>● 本町の主要産業である漁業・農業分野の産業振興は本町の重要課題であることから、必要に応じて、町内外の関係団体との協議の場を設けていくものとする。</li> </ul>

令和4年度にいねタクの充電設備が整備されたことを受け、充電設備の再エネ利用率を最大限に高めるための調査・検証を行うとともに、再エネ利用の将来像に示すStep2の実現に向けた検討（実現可能性調査）を引き続き実施する（図6-1参照）。



図6-1 再エネ利用の将来像と次年度以降の予定

## 6.2.2 令和5年度の実施内容（案）

### 【再エネ活用型 EV 充電設備の効果検証及び利活用検討】

令和4年度に運行を開始した「いねタク」は、住民や観光客利用が拡大しており、順調な滑り出しをみせている。令和5年度には、整備した再エネ活用型 EV 充電設備の運用が開始されることにより、充電設備で発電した電気を「いねタク」へ供給し、再エネを使った運行が始まる。

そのため、整備した充電設備の効果検証を行うとともに、充電設備で発電した電気を EV に供給し、「いねタク」の効果検証を継続して運行計画の検証・見直しを行う。

これにより、更なる住民利用や観光客等のラストワンマイル利用を促進し、「いねタク」が運行することによる再エネ理解促進効果を高め、再エネ利用率の向上を目指した検討を行う。

### 【地域の更なる再エネ電源開発及び自家消費率を高める手法の検討】

新たな将来像(Step.2)の具体化にむけて、また、地域の更なる再エネ理解促進・転換へとつなげるため、町内にある遊休地を活用した新たな再エネ電源開発を検討する。

対象地は、太鼓山風力発電所跡地を予定し、風力以外の活用の可能性を調査し、再生可能エネルギーの導入・利活用を図る新たな起点としての可能性を検討する。

また、既存及び新規再エネ電源を地域内で余すことなく消費するため、複数電源をつなぐ新たな利活用策の検討を行うとともに、令和2年度に作成した再エネ利用に関する基本戦略（将来像・ロードマップ）の見直しを行う。

### 【再エネ活用型 EV 充電拠点・「いねタク」の広報素材作成】

令和4年度に運行を開始した「いねタク」は、過疎地域における新しい地域公共交通システム・新しいエネルギーの使い方として注目を集めている。内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議の令和4年度「夏のデジ田甲子園（町村・実装部門）」の京都府代表として本選出場をはじめ、同様の課題を抱える多くの自治体等から視察申し込みがあるが、現状は再エネ充電設備と EV を活用した「いねタク」の取組みを効果的に、さらに再エネ理解促進につながる広報素材がない。

このため、本事業成果を広く住民や観光客、視察者等に効果的に伝え、再エネ理解促進の高い効果を得るため必要な広報素材の作成を行う。